



## 令和5年度 府中市立府中第七小学校 経営計画

はじめに

府中第七小学校は、昭和29年4月1日府中第五小学校北山分校として発足、翌30年4月1日府中第七小学校として独立開校して以来、今年で69年となります。

校章は、○開校当時、北山一帯が松の林に覆われていたこと。

○小鳥のさえずる松林の思い出を残したいこと。

○松のときわの緑が永遠の発展を願っていること。

○本校創立に尽くされた旧西府村村長、松村敬一郎氏の頭文字であることなどが由来と言われています。

これまでの学校運営にご尽力された皆様に敬意を表し、バトンを受け継ぎ、5年が経ちました。地域に愛される小学校、よき校風を誇りとして守り、更に発展させてまいりたいという思いは変わりません。新型コロナウイルスが、世界中で猛威を振るい、3年以上が経ち、この5月には2類から5類へ移行される予定です。生活様式もアフターコロナへと移行しつつあります。学習指導要領を基に、「GIGA スクール構想」を着実に進め、一人1台のタブレット端末の貸与も2年が経ちました。

これからの学校には、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。【(学習指導要領より)】

6年間を通して、子供たちが基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びに向かう力、人間性を涵養してまいります。学校運営の手だてとして「地域協働、チーム七小、笑顔の学校」をキャッチフレーズに、教職員一同、尽力してまいります。

### 府中市立府中第七小学校 教育目標

「つよく」 丈夫な体と強い意志をもち、責任をもって最後までやり遂げる力。  
健やかな体の育成 ～しんの強い子～【行動力】

「ただしく」 基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考え、判断し、すすんで創造的に行動する力。  
確かな学力の向上 ～学び続ける子～【問題解決力】

「あたたかく」 自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きることのできる力。  
豊かな心の醸成 ～思いやりのある子～【人間関係形成力】

# 1 目指す学校

## 《府中第七小学校の特色》

### 七小の七つの宝

- ◎ あいさつが上手である。
- ◎ 話の聞き方が上手である。
- ◎ 発表の仕方が上手である。
- ◎ 元気に歌が歌える。
- ◎ ルールを守れる。
- ◎ 素直である。
- ◎ 思いやりがある。



## 《教育の重点》

自慢できるクラス、学年をつくろう、誇れる学校をつくろう。

「みんなは一人のために 一人はみんなのために」～ One for all All for one ～

## 《教育内容》

### (1) 「つよく」

- ア 元気に外で遊べるようにする。
- イ 体力向上を目指した活動にすすんで取り組む。
- ウ 何事にも最後まで頑張ることができるようにする。
- エ 責任を負う活動や役割をもち、達成感や自己有用感をもてるようにする。
- オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

### (2) 「ただしく」

- ア 学習規律・学習習慣を身に付ける。
- イ 学習の基礎・基本を確実に身に付ける。
- ウ 知識及び技能を身に付ける。
- エ 思考力、判断力、表現力を養う。
- オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。(SDGs の考え方に基づく)

### (3) 「あたたかく」

- ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。
- イ 友達を信頼し、助け合ったり高め合ったりできるようにする。

- ウ 互いの違いを認められるようにする。
- エ 感謝の気持ちを持ち、伝えられるようにする。
- オ 合意形成力を育み、課題を解決できるようにする。

(4) 道徳教育の充実

- ア 人権尊重の観点から、人権を守り、自他を大切にできる心情を養う。
- イ あらゆる偏見や差別をなくす教育、いじめ未然防止の教育に取り組む。
- ウ 生命尊重の精神、規範意識を高め、育む。
- エ 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、豊かな人間性を育む。
- オ 「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。

## 《目指す教職員像》

### 「地域協働・チーム七小・笑顔の学校」

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
- (2) 「OJT」に取り組み、学び続ける。
- (3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。
- (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。
- (5) 教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
- (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。「70周年行事準備」
- (7) 法令遵守、服務規律の徹底。
- (8) 武蔵台小学校・府中第七中学校との小中連携、一貫教育を推進する。
- (9) 働き方改革「男性職員の育業取得の促進」
- (10) 危機管理

## 2 中期的目標と方策

具体的な目標	3年後	5年後
(1) 児童の自己肯定感（自己評価）	80%以上	85%以上
(2) 基礎・基本の学力の定着 ベーシックD	85%以上	90%以上
(3) 読書量、年間、学年×1000 ページ	75%以上	80%以上
(4) 挨拶のできる児童（学校評価・自己評価）	90%以上	95%以上

	3年後	5年後
(5)	学年専科制を高学年の「外国語活動」「外国語」以外にも拡充する。	学年専科制を中・高学年の「外国語」、中学年の「外国語活動」以外にも拡充する。
(6)	七中との系統的指導の推進。「外国語・英語」「保健体育」「図工・美術」から、「音楽」と乗り入れ授業を広げる。 ●「元気アップチャレンジデー」を実施し、生活習慣を見直す機会とする。 ●陸上記録会の指導を第七学校グラウンドで受ける。 ●第七中学校、生徒からの読み聞かせを聞く。(オンライン有)	七中との系統的指導の推進。「外国語・英語」「保健体育」「図工・美術」「音楽」から「国語」と乗入れ授業を広げる。 ●「元気アップチャレンジデー」を実施し、生活習慣を見直す機会とする。 ●陸上記録会の指導を第七中学校グラウンドで受ける。 ●第七中学校、生徒からの読み聞かせを聞く。 ●3校で「ビブリオバトル」の会を開く。
(7)	「七小防災会議」を中心に避難所開設訓練を毎年実施する。	「七小防災会議」を第七中・武蔵台小と拡充して開催する。

以上の項目の目標を達成するために、地域や府中第七中学校区の小、中学校で連携、協働し、互いの教育活動について、切磋琢磨し高めていく。それぞれのスクール・コミュニティ協議会、防災組織と三校校長連絡会や小中一貫教育コーディネーター連絡会の活動を重視し、拡大、充実したものにしていく。

### 3 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

「つよく」

ア 元気に外で遊べるようにする。

- 中休み、昼休みと誘い合って自由に遊ぶ時間と、大勢での外遊びができるように、学級や学年で係をつくり、計画的に遊ぶ時間をもつ。

イ 体力向上を目指した活動にすすんで取り組む。

- 年間を通して学年ごとの「パワフル7（セブン）」を実施する。  
1 学期「体力テスト週間」2 学期「マラソン週間」3 学期「なわとび週間」。  
全学年「ふちゅうロープチャレンジ」（長縄8の字連続とび）に参加する。

ウ 何事にも最後まで頑張ることができるようにする。

- 生活・学習の場面、行事の練習や準備などで最後まで頑張る体験活動を通し

て指導し、評価する。

- 「キャリア・パスポート」を通して、自ら目標をもち、様々な活動に粘り強く取り組み、振り返り、次に生かせるようにする。

エ 責任を負う活動や役割をもち、達成感や自己有用感をもてるようにする。

- 当番や係活動など、日常の責任を負う活動や役割を通し、体得できるようにする。班長、グループ長、委員長など、リーダーを体験できるようにする。

オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

- 毎日の教育活動の中で、一人一人の子供のもつよさに気付き、認め合えるように、「教師の励まし」や「子供からの称賛」を伝える。
- どの子供も励ましや応援を受けられるようにする。
- 自慢できるクラス、学年づくりに貢献できるようにする。

## 「ただしく」

ア 学習規律・学習習慣を身に付ける。

- 「学習スタンダード」「授業スタンダード」を徹底する。(チャイム着席)
- 家庭学習の習慣を確立する。(学年×10分間)

イ 学習の基礎・基本を確実に身に付ける。

- 基礎、基本の徹底、反復。「ベーシックD」「eライブラリー」を活用する。

ウ 知識及び技能を身に付ける。(「何を知っているか。何ができるか。」)

- 学習のめあてを理解し、それに向かって努力し、振り返りを大切にする。
- メタ認知力を育む。

エ 思考力、判断力、表現力を養う。(「知っていること、できることをどう使うか。」)

- 知識・技能を活用して課題解決に必要な力を育む。
- 充実した言語活動を通して、学習の基盤をつくる。
- 充実した情報活用の学習活動を通して、情報活用能力(情報モラルを含む)を育む。

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。(「どのように社会・世界と関わり、よりよい生き方にするか。」)

- 自分で目標を立て、それに向かって努力し、意思決定力と実践力を育む。
- 読書にすすんで取り組む。
- 「詩の暗唱」にすすんで取り組む。

## 「あたたかく」

ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

- 「生活スタンダード」を徹底する。
- 年間を通して縦割り班で「あいさつ運動」に取り組む。

イ 友達を信頼し、助け合ったり、高め合ったりすることができるようにする。

- 言葉の使い方や態度について指導し、学級や学年、異学年の仲間と仲良く生

活できるようにする。(1学期に「ふわふわ言葉」に取り組む。)

- 特別活動の行事などを通して、役割をやり遂げ、活動を楽しみ、人間関係形成力や自己肯定感を高めたり、自己実現を図ろうとする態度を育成したりする。

ウ 互いの違いを認められるようにする。

- 児童一人一人の良さを認め、伸ばす。(全教育活動を通して)
- 縦割り班の活動を通して、リーダーシップ及びフォロワーシップを養う。

エ 感謝の気持ちを持ち、伝えられるようにする。

- 2, 3学期に「ありがとうの木」の取組を実施する。3学期には地域に広げる。

オ 合意形成力を育み、課題を解決できるようにする。

- 学級や学年、縦割り班、クラブなど、集団での課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図る。

### 「道徳教育の充実」

ア 人権教育の観点から、人権を守り、自他を大切にできる心情を養う。

- 人権が守られているキーワード「安心して、自信をもって、自由に選べる」ことを理解し、実践する。(「人権作文コンクール」に参加)

イ あらゆる偏見や差別をなくす取り組み、いじめ未然防止に取り組む。

- 弁護士会の「いじめ未然防止」の授業を通して「いじめ」を許さない校風をつくる。
- 日々の教育活動を通して、偏見、差別、いじめの芽を見逃さない。
- 「いじめ対策委員会」を迅速に運営する。

ウ 生命尊重の精神、規範意識を高め、育む。

- 生命のかけがえのなさを理解し、大切にできるよう指導する。
- ルールを守ることの大切さを理解し、実践できるように指導する。(全校朝会・学級、学年指導)

エ 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、豊かな人間性を育む。

- オリパラ教育の継承、ふるさと学習、地域学習の活性化を図り、府中を愛する心を醸成する。
- SDGs (国連) 2030 年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標、5つの分類・17の目標。ESD (ユネスコ) 持続可能な社会の創り手を育む教育の視点を持ち、自分でできることを主体的に考える態度の育成を図る。また、それらを解決するために必要な能力を身に付けるようにする。

オ 「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。

- 「道徳授業地区公開講座」を計画し、家庭や地域との共通理解、連携を図る。
- 「特別の教科 道徳」以外の授業の特質に応じて、適切な道徳教育を行う。
- 教育活動全体の中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。

## 目指す教職員像の目標と方策

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を發揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
- ア 「子供のための教育」で一致できる教職員のチーム力を高める。
  - イ 学年部、事務部を基底に、合理的な校務分掌を組織し、自主的に協働する。
  - ウ 主幹会、企画会、職員会議の流れでコンセンサスを得、教育課程を推進する。
  - エ 職員夕会、生活指導夕会で情報を共有し、共通認識、共通実践に努める。
  - オ 「学校経営支援事業予算」「副校長等校務改善事業予算」を100%活用し、適宜、適切に支援員を配置、執行する。
- (2) 「OJT」に取り組み、学び続ける。
- ア 社会人、組織人、プロ教員・プロ学校職員としての資質・能力の向上に努める。
  - イ 人権感覚を磨き、「人権教育プログラム（学校教育編）」のチェックリストで定期的に確認する。
  - ウ 都や市の研究制度を活用し、今日的課題にすすんで取り組み、校内に還元する。
  - エ 「ミニ研修会」を通して、若手、ベテランの枠をはずし、スキルを学び合う。
- (3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。
- ア 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～単元学習とデジタル教材の開発を通して～」を研究主題として、すすんで校内研究に取り組み。
  - イ 教師自らが率先垂範し、「七小授業・学習スタンダード」の改善、徹底に努める。
  - ウ 全ての児童が「分かった・できた」と感じられるよう、ユニバーサルデザインの考え方を基調とし、個に応じた適切な支援に努める。
  - エ プログラミング教育の意義や学習のねらいを理解し、プログラミング的思考力の育成など、身に付けるべき資質・能力の育成を図る。（GIGA 推進委員会）
  - オ 「特別の教科 道徳」については、「考える道徳、議論する道徳の授業」を目指し、資料や板書のデータ化により、共有財産を増やす。
  - カ キャリア・パスポートの活用実践に取り組み、キャリア教育を推進する。  
（特別活動部）
  - キ 「GIGA スクール構想」の推進。一人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、子供たちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現を目指し、GIGA 推進委員会で研修を計画し、全教員が具体的なデジタルスキルを身に付ける。（デジタル教科書の活用）
  - ク 「TGG」英語体験活動、「英語 Enjoy Week」に取り組み、英語を用いたコミュニケーション活動の充実を図る。
  - ケ カリキュラム・マネジメントを推進し、教科等横断的な視点で「東京都統計グラフコンクール」に取り組み。
  - コ 学年部を基調に教務部で縦の系統を確認し、「指導と評価の一体化」に取り組み。

- (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。
- ア 「生活・交通・災害」安全教育の3領域の指導を連携して計画的に実施する。
  - イ 学校生活を通して、危険を予測し回避する能力や、自助・共助・公助の意識を育み、高める。(「防災プロジェクト」の取組)
  - ウ インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの、感染症予防の生活様式、生活習慣を徹底する。
- (5) 教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
- ア 学級経営の充実を図り、集団場面での指導や援助を行うガイダンスと個々の児童の多様な実態を踏まえた個別のカウンセリングにより、児童の発達を支援する。(小中一貫連携教育を踏まえ、「こころの天気予報」を活用し、児童理解に努める。)
  - イ 特別支援コーディネーターを中心に校内委員会の充実を図る。
  - ウ スクールカウンセラーとの連携の下、配慮を要する児童へ適切な指導を行う。
  - エ 教職員の特別支援教育への理解や、「ひばり」の教育活動との連携を深める。
  - オ 副籍交流を実施するなど、インクルーシブ教育の理解に努める。
  - カ 不登校児童、登校渋り児童を支援する「サポートルーム」の組織的、適切な運営に努める。
- (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。
- ア PTA、スクール・コミュニティ協議会、七小防災会議、おやじの会、青少対、町会、府中PFSと連携し、地域に根差したよりよい教育活動を推進する。
  - イ 学校から地域の行事や市の事業などに積極的に参加する。(参加の自己申告)
  - ウ ホームページやブログの定期発信及びスマート連絡帳の一斉配信など適宜、適切な情報発信に努める。
  - エ 「教育課程」及び「学校経営計画」と「学校評価」を照らし合わせ、よりよい学校づくりに活用する。
  - オ 「七小防災会議」と連携し、年に1度、避難所開設訓練を実施する。
  - カ 「70周年行事準備」来年度70周年を迎えるに当たり、PTA本部と連携して周年準備会を6月以降、立ち上げる。
- (7) 法令遵守、服務規律の徹底。
- ア 「報告・連絡・相談・記録」を徹底する。(よくないこと程、早くを合言葉に)
  - イ 服務事故防止研修を計画的に実施、充実したものとする。(服務事故0の継続)
  - ウ 「学校徴収金事務取扱規定」の下、学校徴収金の管理、取扱いに万全を期す。
  - エ 「情報セキュリティ実施手順」を基に、教育情報を適切に管理、運営する。
- (8) 武蔵台小学校・府中第七中学校との小中連携、一貫教育を推進する。
- ア 義務教育9年間の各教科・領域における「学び」と「育ち」のカリキュラム接続を含めた、系統的指導、継続的な指導に取り組む。  
(元気アップチャレンジ週間・ノーメディアデー 管理職の定期的な情報交換)

## (9) 働き方改革

- ア 教員が本分の業務（授業準備、学習評価、生活指導、行事の準備など）のために時間を使えるよう、学校経営支援事業（配当予算287万4,000円）・副校長等校務改善事業（179万3,400円）を100%有効に活用する。
- イ 教員一人一人の健康保持の実現を図り（メンタルヘルスチェック）、子供に笑顔で接することができるようにする。
- ウ 男性教職員の育業取得を促進できるように校内体制を整える。

## (10) 危機管理

- ア 「府中市いじめ防止対策推進条例」（令和5年4月1日施行）「学校いじめ防止基本方針」（令和5年4月1日改訂）に基づき、年に3回以上の「いじめアンケート」、SCによる全員個人面談（5年生児童を対象）を実施する。
- イ いじめ等の早期発見に努め、迅速に「いじめ対策委員会」をもち、適宜、適切な組織的対応を取る。
- ウ 「アレルギー対策委員会」を開き、今月の献立における食材について確認、アレルギー児童の家庭との連携を確実に取り、安全・安心な給食に万全を期す。
- エ 「情報セキュリティ委員会」を計画的に開き、年に1度は研修会をもち、教育情報セキュリティの管理運営に万全を期す。

## (2) 重点目標と方策

### 1 「つよく」

オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

- ・児童のよいところ、頑張っているところを教室、職員室の話題にし、情報共有できる仕組みをつくり、学校中で共有する。
- ・「今日のがんばりさん」、「今日のMVP」など、あらゆる場面で真面目に努力した子供が認められるようにする。
- ・2学期末に、「クラス・学年自慢」を全校朝会で発表する。

### 2 「ただしく」

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

【目標：3年生以上 学年×1,000以上、達成率70%

1年生100冊以上、2年生200冊以上、達成率80%以上】

- ・全校一斉の朝読書、年3回の読書週間に取り組む。（「おすすめ本カード」の作成、掲示や「読書郵便」の活動を通して、校内で図書の情報や読書の楽しさを共有できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。）
- ・「読書貯金」や「読書レストラン」など、発達に合わせた読書カードを活用し読書活動の振り返りができるようにする。
- ・担任、学校司書の読み聞かせをはじめ、「どんぐりさん（保護者有志）」、

「蔵内さん（読書ボランティア）」の読み聞かせを通して読書に親しむ。

- ・読書の記録を丁寧に指導することを通して、学年×1000ページが達成できた児童には、全校朝会で表彰し、称賛する。
- ・小中連携一貫教育の中で、「ビブリオバトル」の方法を共有し、チャレンジする。

### 3 「あたたかく」

ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

- ・「あいさつ当番」を体験し、挨拶の大切さに気付くことができるようにする。
- ・代表委員会と連携して、「あいさつ名人」運動に取り組む。
- ・府中第七中学校の生徒、教員と連携して、合同の「あいさつ活動」を計画、実施する。

（毎朝校長が正門に立ち、登校する児童に笑顔で挨拶する。）

## 教職員の重点目標と方策

(3)「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。

【目標：学校評価85%以上】・週案簿の提出、100%を継続する。

- ・全教職員が2，3学期に1つ以上のデジタル教材の活用能力を身に付け、発表する。
- ・「授業・学習スタンダード」の実践を振り返り、7月までに改善点、改良点を検討する。
- ・ユニバーサルデザインをはじめ、子供一人一人の成長を促す指導や支援の在り方を常に追求し、実践する。
- ・GIGA推進委員会のリードでプログラミング的思考力、身に付けるべき資質・能力の育成について今年度前期までに研修する。
- ・「考える道徳、議論する道徳の授業」を目指し、資料や板書のデータ化を継続し、共有財産を増やし、活用する。
- ・特別活動部が中心となって「キャリアパスポート」の活用実践をまとめ、キャリア教育の共有財産を増やし、活用する。
- ・電子黒板などICT「Information and Communication Technology（情報通信技術）」を活用した授業を推進する。
- ・GIGA（Global and Innovation Gateway for All.）スクール構想を推進し、情報推進委員長を中心に、GIGA推進委員会を組織し、毎月1回、計画的に研修に取り組み、一人1台の端末をいかに活用するか、全教員が具体的なスキルを身に付け、デジタル教科書の活用など、児童一人一人の資質、能力を確実に育成できるようにする。（令和4年度に引き続き、研究推進委員会で、「デジタル教材の開発と指導計画」をまとめる。）
- ・授業観察時は授業実践の学び合いの場とし、全教員に事前に略案を配付する。

授業を通して、自評、改善点等、双方向で授業の展開や指導技術について、話し合う。

- ・教科担任制の推進。(外国語活動・外国語)
- ・都及び市内の研究協力校の様々な研究成果に学び、府中市立小中学校研究会の各部に所属し、指導力を高め、指導技術を身に付ける。
- ・週案の作成、確認を通して、学年会で適正な「指導と評価の一体化」について検討、確認する。更に、学期の前半、後半で教務部担当が縦の系統を確認し、府中七小の「指導と評価の一体化」を推進する。

#### (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。

【目標：学校評価85%以上】

- ・「危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育てる安全教育プログラム」を確認し、年間を通して、組織的に、安全教育の3領域(生活安全・交通安全・災害安全)をバランスよく指導する。「必ず指導する基本的事項」については、全教職員で連携、徹底する。  
(「交通安全教室」・「セーフティ教室」・「自転車競技大会」などの取組)
- ・毎年継続して実施している「防災プロジェクト」の取組を通して、自助・共助・公助の理解と実践力を育てる。
- ・年間の保健指導を通して、衛生環境について正しく理解できるように指導し、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの、感染症予防の生活様式、生活習慣を身に付けられるようにする。
- ・5月中に、危機管理体制をマニュアル化し、保護者、地域への十分な情報周知、に努める。情報提供は、常に最新のものに留意する。
- ・学期ごとに、生活指導部が中心になって、全教職員で環境整備、予防的安全指導の工夫及び改善に取り組む。

#### (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。

【目標：学校評価85%以上】

- ・定例のPTAの運営協議会、スクール・コミュニティ協議会をもち、計画的に連携し、府中第七小学校の運営について協力を得、改善点を指摘していただき、よりよい教育活動が推進できるようにする。
- ・運動会や展覧会、学校公開の際には、PTA、おやじの会に協力を得、よりよい行事の運行の推進に取り組む。
- ・青少対(第7地区、第10地区)、府中PSFなど外部関係機関と計画的に連携し、組織的に連携し、地域の行事や市の事業などに積極的に参加し、地域に根差したよりよい教育活動を推進する。(地域行事参加の教員の自己申告制)
- ・ホームページやブログの定期発信及びスマート連絡帳の一斉配信など適宜、適切な情報発信に努める。(常に情報を最新のものにする。)
- ・各学期末に「教育課程」及び「学校経営計画」と「学校評価」を照らし合わせ、実際の教育実践を振り返り、次年度以降につなげる。

- 「七小防災会議」を中心に、地域自治会、PTA、おやじの会、赤十字、消防団等と連携し、年に1度、避難所開設訓練を実施する。
- カリキュラムマネジメントの推進に取り組み、児童の自己評価、保護者の学校アンケートを改善し、教育課程、教育計画との連動を強化する。
- 「府中 PFS」のお力添えによる「ゴーヤの緑のカーテンづくり」「花壇づくり」に継続して取り組み、校内環境整備や校内美化に努める。
- スクールコミュニティ協議会及びPTAと連携した「漢検」を昨年度に引き続き実施し、地域との協働で「目標をもってチャレンジする」態度を育てる。
- 交通安全ボランティアの方々との交流活動の実施。(5月の全校朝会での紹介、3年以上活動をされている方への感謝状の贈呈)(学校+PTAより)。
- 学校教育に多大なご協力をいただいている方へ府中市教育委員会からの感謝状贈呈への推薦を実施する。
- 「70周年行事準備会」をPTA本部と連携して、6月以降に立ち上げる。

### (9) 働き方改革

【目標：全教職員 1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

- 全教職員で、授業準備、学習評価、生活指導、行事の準備など、教員本分の業務の優先順位を共有化し、副校長等校務改善支援員などに、支援を要請する。
- Tコンパスの掲示板機能で、文書を周知したり、スマート連絡帳で通知を送信したりして、校務業務の効率化、ペーパーレス化を促進する。
- 企画会において、毎月チェックシートを用いて校務の状況を振り返り、改善する。
- 普段の学年会、専科会、事務部会の中で、心身の健康状況について、互いに留意し、「健康・安全第一」を合言葉に、健康保持に努める。
- 東京都の「メンタルヘルスチェック」を受け、心の健康状況を客観的に知る機会をもつ。
- 校内体制を整え、教職員の男女を問わず、育業取得を促す。(長期休業中など)
- 毎週水曜日の定時退勤の推進。